

 <p>貧困・辺境の子どもたちの「学びたい」を支える給食</p>	 <p>2018年7月25日発行</p>	<p>NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会 (英文名略称・HANDS) 本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11 TEL & FAX: 045-500-9151 E-mail: hands-mindanao@nifty.com http://hands-mindanao.a.la9.jp/ 郵便振替口座 00210-5-72693 (加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会</p>
---	---	--

国連の持続可能な開発目標SDGsと私たちの活動

まずは西日本を襲った豪雨の犠牲者、及び、被災者の皆様に対して、心からのお悔やみとお見舞いを申し上げます。

豪雨、超大型台風の発生、また、今も続く被災地の救出作業を妨げている酷暑などの異常気象を、温暖化という気候変動の結果であるとし、その原因を二酸化炭素排出量増加や、森林面積の減少に求める説に対しては、異を唱える専門家もいますが、国連は2015年9月に採択した「持続可能な開発目標SDGs」の13番に、「気候変動に具体的な対策を」を含めました。

2030年をゴールとするこの13番を含む17の持続可能な開発目標に向けて、国際機関、各国政府、企業、さらに、私たちのような市民組織も努力するように求められています。



先日申し込みを済ませた「よこはま国際フェスタ」と「よこはま国際フォーラム」の参加申請フォームにも、当団体の各種活動がSDGsのいずれにコミットしているか回答する欄がありました。

このSDGsについては、91号でも簡単にご紹介しましたが、ここでは上記の参加申込書の回答に添って、改めて、私たちの活動がSDGsのいずれに貢献しているかについて、皆様と共有させていただきたいと思えます。

まずは、2002年に農業専門家チームPFPがパートナーに加わったことから本格的に活動を始めた森林農業です。毎年40-50haのペースで実施してきた苗木植栽も、荒廃が進むミンダナオ島山岳部にあっては大海の一滴でしかありませんが、SDGsの中では、上記13番の「気候変動に具体的な対策を」への貢献ということになります。今年度は事業地域変更でスタートが遅れたものの、年度末までにはビラーンの村クロッドの40haに各種苗木8,000本を植える予定です。(関連記事P4)

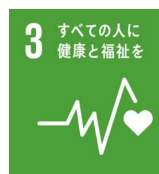
山岳部先住民族を活動対象とする当団体では、樹木が消えた山腹斜面のコーン単作に代わる森林農業の推進は、環境修復のみならず、持続可能な収入向上、貧困解消のためにも重視してきました。この森林農業普及はSDGsの「1 貧困をなくそう」にも貢献する活動です。

また、民族のアイデンティティ保持を目指す先住民族の伝統織物など、ハンディクラフトの技術研修や販路拡大の活動も、特に女性の収入向上を支え、貧困解消に貢献するものといえます。



実施中の事業では、8月に完了予定のナバルタビ織振興事業がそれに該当します。

一方、本年度の予算からみると、当団体の最も重要な活動は、事業費の7割を占める初等教育の普及と人材育成です。「4 質の高い教育をみんなに」への貢献です。2013年にチボリ国際里親の会の活動を引き継いだことで、その比重が増しました。「質の高い教育」を後輩に授けるため、特にビラーンの大学奨学生は教員国家試験合格まで支援しています。



辺境と貧困の中にある先住民族の患者支援や簡易水道建設などを実施し、昨年は母子のいのちを守る助産所建設を支援しました。「3 すべての人に健康と福祉を」への貢献です。

また、私たちは広報や啓発を活動の中心に置いていませんが、今も戒厳令下にあるミンダナオで活動する組織として、人権尊重・地域の平和、世界の平和は最大の関心事の一つです。各種活動を通じて「16 平和と公平をすべての人に」にも貢献できたらと思います。



点でしかない各組織の活動が、線となって繋がり、面として世界に広がり、SDGsに近づくことを願っています。(山崎)